

Japanese Welfare Society in Australia



# Hope Connection Newsletter No.35

ホープコネクションニュースレター第34号 発行日2005年10月1日 発行者 Hope Connection Inc.  
住所／郵便宛先 c/o Migrant Resource Centre, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話（電話相談兼用）0408-574-824  
\* Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録された非営利非宗教の社会福祉団体です \*  
ホームページ : <http://members.optushome.com.au/hopec> e-mail : [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au)

## ホープコネクションからのごあいさつ

突然ですが、「どんなときにお医者様に行かれますか？」という質問に皆さんはなんと答えられますか？『具合が悪いときにきまっているじゃないか』という方が殆どだと思いますが、最近の医学は、治療はもちろんですが、予防にも力を入れて来ているようです。

身体の病気に対する予防で誰でも知っているものといえば、予防接種ですね。これは病気の抗体を注射して身体の中に免疫を作ることによりその病気にかかることを防ぐか、またはかかってしまった場合でも軽くてすむようにするものです。一般に身体の免疫力を高めておくことはとても大事なことです。病原菌が身体に侵入してきたときに身体がその菌と戦うことができるからです。免疫力を高めるためには、あたりまえのようですが、十分な栄養や休養を取ることで、ストレスをためないこと、適度な運動を行って血液の循環を良くしておくことなどがあげ

られます。

さて、心の病気に対する予防はいったいどうしたらよいのか考えてみましょう。皆さんは一体どんなときにいらいらしたり落ち込んだりなさいますか？身体が疲れていたり具合が悪いときには、気持ちもネガティブになりやすいし、反対に体調が良いときには、気持ちに余裕がでるではありませんか？健全な精神は健全な肉体に宿る、と申します。いつも前向きな気持ちを保つためには普段からの体調管理が大切だ、といえるかもしれません。

11月のホープコネクション・カルチャースクールでは、「ストレッチで健康管理」をテーマに、フィットネス・インストラクターの Kiyomi Campbell さんにおいでいただき、手軽にできるストレッチを教えてくださいます。皆さんも身体をのばして、心身共にリラックスしてみませんか？

## Quarantine Matters! オーストラリアの検疫 ホープコネクション・カルチャースクールから

ホープコネクションでは去る8月に、Australian Quarantine and Inspection Service からお二人の係員と一匹の検疫犬におこし頂いて、オーストラリアの検疫についてのセミナーを開催しました。その時のお話をもとに、オーストラリアの検疫についてちょっと豆知識をどうぞ。

### Australian Quarantine and Inspection Service :AQIS とは

AQIS はオーストラリア連邦政府農林水産省の一部門で、オーストラリアを出入りする人々、貨物、郵便物、動植物などの検疫監視を行うところです。2,800人のスタッフで、1000万人の旅行者や、年間1億8000万通の郵便物、130万台の貨物コンテナ、12,000隻の国際船・航空便の検査を行っています。空港では、毎月33,000個もの持ち込み禁止品を没収しています。また、AQIS はオーストラリアから輸出される農林水産品についての審査や証明書の発行なども行っています。

### Quarantine の語源は？

イタリア語で40日を意味する 'quaranti giorni' から来ています。14世紀にヨーロッパで腺ペストが流行した際にベニス

共和国では、やってくるすべての船を40日間港の沖合に停泊させ病気が発生しないことを確認してから上陸や荷下ろしを許可しました。40日間病気がでなければ、伝染するような危険性はないものと判断したのでした。

### Quarantine の目的は？

この国の 1) 人々 2) 動植物 3) 一次産業（農林畜水産）を外国からの伝染病や病害虫から守ることを目的としています。オーストラリアは海に囲まれて特別な生態系を持っていることもあって、世界でも有数の厳しい検疫のレベルを保持しています。人々や貨物の国内への入り口、港・空港・メールセンターでの防疫が最も重要と考えられ、“Border Control”として、係官による視察のみでなく、検疫犬やX線検査などさまざまな方法での検査が行われています。

### Quarantine と Customs はどうちがう？

AQIS はオーストラリアを外国からの害虫や病気から守るための働きをしています。一方、Australian Customs Service は禁止薬物や武器などの違法な物品を国内に持ち込ませないため

の機関です。両者は協力して、港・空港・メールセンターなどで働いています。

### キュー○×マヨネーズはこちらの店にも売っているのに、どうして日本から持ち込んではいけない？

鳥インフルエンザなどの伝染性の病気がオーストラリアに侵入するのを防ぐため、10%以上の割合で卵が含まれている食品は一般の持ち込みが禁止されていて、マヨネーズはこれにあたります。但し、このような禁止項目に当てはまる食品であっても、個々の食品についてその材料の原産国や加工場所・方法など詳しい情報を付けて輸入申請をし、キャンベラの AQIS テストセンターでの審査で合格したものについては輸入が認められます。店頭にあるキュー○×マヨネーズはこのような手順をへて輸入されている訳で、おそらく日本から私たちが個人で持ち込んでくるキュー○×マヨネーズもきっと検疫上問題になるようなことはないでしょう。でも、空港やメールセンターでのインスペクションの際に世界中のいろいろなブランドのマヨネーズについて個々にその安全性を確認することは実際上できませんので、一律、マヨネーズは持ち込み禁止として扱われています。

### 検疫犬にはどうしてビーグルがつかわれるの？

理由の一つは、ビーグルの 'friendly' なルックスにあります。ビーグルは空港などの人々が集まるところで、人の体や荷物の中の臭いを嗅ぎ分けて働いています。周囲の人々に親しみやす

い印象を与えながら、人ごみの喧噪の中でも落ち着いていること、人の倍以上の嗅覚を持っていることなどが検疫犬に適している理由のようです。ビーグルは目的の臭いを見つけると、その場におすわりをしてハンドラーがご褒美の餌をくれるのを静かに待っています。

これに対して、国際メールセンターや国際貨物便センターなどではちょっとちがった働き方をしている検疫犬がいます。こちらは、目的の臭いのする荷物を見つけると、それを鼻や前足で掘り出して教えてくれます。ラブラドルリトリバーなどの大きめの犬がよく使われます。

検疫犬は、果物や野菜、生の植物、種、生きている鳥や爬虫類、ミツバチ、肉類、卵、土などを見つけるように訓練されていて、しかも、レモンには反応するけれど、レモンの香りのシャンプーには反応しない、普通のケーキには知らん顔しているけれど、フルーツケーキは見つけてくることができます。

AQIS では検疫犬として働ける犬を募集しています。'求む！フレンドリーな明るい性格で、食いしん坊なビーグル' 詳細は <http://www.daff.gov.au/content/mediareleases.cfm?0bjectID=8FDBA198-D263-450B-88ED7E1D96ABB201>

オーストラリアの検疫についての全般的な情報は以下をご参照下さい。

<http://www.aqis.gov.au>

Phone: 1800 020 504

## 留学生調査 その3

ホープコネクションが約2年半ほどかかって高校生を対象に行った留学生調査について、ニュースレターNo. 33 では主にアンケート調査の結果を、そして No. 34 では面接調査で設けた学校生活についての設問結果を分析して報告した。今回はホストファミリーについて面接調査の結果を報告したい。

### ホストファミリーについて

面接前に行ったアンケート調査の結果をみると、ホストファミリーとの関係は男性1人を除いて不満はないと回答している。しかし、面接で個別に話を聞いてみるとホストファミリーには当たり外れが随分あり、辛い思いをした経験や様々な不満が多く語られた。

#### 1) 収入目的のホストファミリー

D くんのステイ先では、コーディアルは飲んでもいいが冷蔵庫にあるフレッシュジュースは飲んではいけない、というルールがあった。要するに、安物は留学生用、高価なものは家族用、ということである。また、別のホストファミリーでは、A さんが住み始めると同時にガレージや家のあちこちが改築され新しくなっていったのに、A さんの夕飯はどんぶり一杯のご飯の上に茹でた野菜が少しとツナ缶のみというのが殆ど毎日であったと言う。A さんは、当時のガーディアンが怖くてホストファミリー変更の希望も伝えられず、2年間そこの暮らしを我慢して続けた。支払ったホームステイ費用について、A さんはもっ

## ホープコネクション留学生調査チーム

と自分のために使って欲しかったとコメントしている。

アンケート調査では、回答者の殆どがホームステイ先では1人部屋を所有していると答えている。しかし、I さんの最初のホームステイ先では、家は新築二階建てと立派だったが彼女に与えられたのは部屋でなく、仕切りで囲って作られたちょっとしたスペースであったという。この家庭は学校が手配したそうだが、ホストファミリーは学校関係者が I さん用の部屋を見に来た時には、学生用の部屋として別の部屋を見せたらしい。まともな部屋でないことを I さんが学校に伝えると、ホストファミリーから非難されるようになり、結局 I さんは別のステイ先へ移った。その後、I さんと同じクラスへやってきた新しい学生が、そのホストの家でやはり仕切りで囲ったスペースを与えられ暮らし始めたというから驚きである。きちんとした部屋がないという問題がはっきりした後でも、I さんを別のホームステイ先へ移ただけで、学校側やホストファミリーによる根本的な問題解決は行われなかったようだ。

このように自分の居場所がきちんと確保できなかつたり、一緒に暮らす家族と差別されたりというように、ホストファミリーから不適当な扱いを受けた経験のある留学生は少なくない。未成年がたった一人で家族や友人の元を離れ、言葉も文化も全く異なる環境で生活していく上で、現地の家族となるホストファミリーは非常に大きな存在と言える。だが残念なことに、単に収入源として学生を受け入れているホストファミリーが多いのも事実のようだ。そのような冷たい環境に置かれては、やは

り心細くもあり淋しく、当然のことながら満足した留学生活は望めないであろう。

## 2) 家庭的なホストファミリー

一方、留学生に対して家族の一員のように大切に接してくれるホストファミリーも沢山いる。しかし、学生の性格によっては、「家庭的＝良いホストファミリー」とは一概に言えないようだ。実際、あまり干渉されたくない性格である G さんは、温かく迎えてくれるホストファミリーとの暮らしの中で、家族と過ごす時間が少ないとホストファミリーから咎められたことがあり、次のように語っている。

「凄い誘ってくれるんですよ、家族が。『映画見に行こう』とかって。でも、映画見たくないから、『いや、いい』って言うんですよ。で、『シアターに何とかっていう劇が来るから行こう』って。『いや、劇嫌いだし、その内容つまんなそうだから、いい』って言うんですよ。『買い物行こう』って言われて、買いたい物がある時は、ちゃんと行きますよ。だから、『行きたい時は行って、行きたくない時は行かない』って言ったんですよ。それが、『何にもついて来ない』って言われて。だって、映画だ行って行ったって払うの自分だし、シアターだ行って行ったって払うの自分じゃないですか。行きたくないものにそんな払いたくないじゃないですか。しかも、行く頻度が凄いですよ、あの家族は。だから『行きたくないものは行きたくない』って言ったんです。確かに、付き合わなきゃいけない時もあるんですけど、だけど、行きたくないものは行きたくないんだよ。」

このように、留学生の性格によっては、その家族の暮らし方が悩みの種になってしまうこともあるので、ホームステイの手配にはそういった性格的要素を考慮する必要もある。

もちろん、家庭的なホストファミリーと仲良く過ごし、上手くいっているケースも多く見られた。ホストファミリーがいつも気に掛けて勉強の進み具合や友人関係の悩み事なども聞いてくれ、元気が出るようにしっかり食事を作ってあげている様子が語られた。こういった回答は、特にゾーン2～3などシティーから離れた場所で暮らす留学生に特徴的であった。I さんは、ホストファミリーからの温かい支えのお陰で「昔より駄々をこねなくなった。大人になった」と自分自身を振り返った。また、母子家庭で育った B さんは、家族の絆の強いイタリア系ホストファミリーと2年間共に過ごし、彼らから深い愛情や家族のありがたみを学んだという。全体的には、面接に応じてくれた多くの学生が、小さな不満はあってもホストファミリーに対して感謝している様子が伺えた。

## 3) 食事について

ホームステイ先の食事については、美味しく満足しているという回答が比較的多かったが、脂っこいとか、同じようなものばかりが出る、手抜き、場合によってはホストが忙しがって作ってもくれないなどの不満も語られた。そういった問題を自分

の年に近い家族に話して改善してもらったというエピソードもあったが、中には食生活が原因で不眠症になり、半年ほど大変な思いを経験した学生もいた。

「原因はストレスもあるんですけど、食生活もあつたらしく。寝る時にもスタミナが要るらしいんですよ。しっかり栄養を取ってなかった為、そこまでちゃんとぐっすり眠れるような体になってなかった。まあ、ストレスはやっぱ眠れないと・・・。寝てないだけでもストレスが溜まっていく自分が居たんで、眠れなかった時期は凄く悪循環でした。」

結局、ハーブ治療で G さんの不眠症は治ったが、やはり栄養バランスの良い食事が健康維持には欠かせないことを、特に育ち盛り的高校生を預かるホストファミリーは、十分留意すべきであろう。

## 4) 休日/病気の時

休日の過ごし方を聞いてみると、ホストファミリーと一緒に過ごすという回答は非常に少なく、殆どが別々に過ごしていることがわかった。これについては、ホストファミリーの性格的要素以上に、今回の調査の対象である高校生という年齢的要素によって、休日は家族より友人と過ごす傾向が強くなるのではないと思われる。

また、病気の時には、病気の度合いにもよるが、よく面倒みしてくれるホストファミリーもあれば、「大丈夫？」と声を掛ける程度であまり助けてくれないところもあるようだ。一般に体調を崩すと気持ちまで弱くなったりするものだが、異国での病気は特に心細いものである。あまり気に掛けてくれないホームステイ先では、日本から持ってきた薬で対処したり、自力でクリニックへ行ったり、近所の友達が看病してくれた、などというエピソードが語られた。

以上、ホストファミリーについて面接調査の結果をまとめてみた。家族の一員のようにホストファミリーから大切にされているケースでは、勉強を見てもらったり、毎日の出来事を話し合ったり、留学生にとってホストファミリーは精神的にも大きな支えになっている。しかし、残念ながら同じような料金を払っているにもかかわらず、自分専用の部屋がない、食事がまともに出ない、ホストファミリーと話す機会が殆ど無い、というようなケースが数多くあるのも事実である。こういった問題に対しては、学校や留学会社・ホームステイエージェントなどのホストファミリーを斡旋する立場の関係者による努力が必要であろう。例えば、注意点を含めたルールをより明確にし、ホストファミリーと留学生の双方を対象にガイドラインを作成するなど、改善が望まれる。また、ホームステイ先の手配においては、受入れ側と学生の性格的要素を考慮することが不可欠であり、学校やエージェントなどの関係者へ向けて、ホープコネクションとしてどのような働きかけができるかを今後は考えていきたい。次回は日本の家族やカルチャーギャップについて報告する予定。

## JCV/ 実りの会からのお知らせ テレリンクしませんか？

テレリンクとは電話で、最高10人までの人達がいっしょに、趣味や興味、その他色々な日常のお話を楽しめるシステムで、テレストラがコミュニティーサービスとして Do-Care を含む NPO 団体に無料で提供しています。

テレリンクを一番使用しているのは、目の見えない人たちの団体で、電話を通して何人かの人達が会話を楽しめるようにと始まり、今も続いているものです。Do-care は今のところ利用者数2番目に位置し、外出に不自由がある人たちのために、自宅からでも友人、もしくは同じ趣味を持った人たちとお話できるようにとテレリンクのサービスを進めています。

テレリンクには主に2つのグループがあり、ひとつは友好グループと言いつい何のこともその時に決めたトピックで会話を仲間と一緒に楽しめます。もう一つは趣味のグループと言いつい、何人かの人達と自分と同じ様な趣味や興味について話し、知識を交換し合ったりします。どちらのグループともに、毎週一回同じ時間帯に45分間の電話を通してのミーティングが可能です。

グループの中には、庭いじり、工作、政治、手芸についてなど、その他にもたくさんあり、現在すでに、40グループがテレリンクを通して毎週会話を楽しんでいます。

実りの会では、最初はふだん日本語を話す機会がない方、外出が出来ず、周りに日本人のお友達がいない方が、毎週思う存分日本語でおしゃべりをできる機会を持ちたいと考えています。日本語コーディネーターの同意した時間にお電話をし、グループの一人一人を紹介し、近況やテーマについてお話ししましょう。あまりプライベートな事の相談や、一人だけ長く話されることは望ましくなく、電話でみなさんとおしゃべりを楽しんでください。コーディネーターは45分内で会話を終わらせなくてはならず、次週にまた新しい話題で話すように準備するでしょう。

参加に興味がある方、アイデアをお持ちの方、Email, お電話ください。質問、お問い合わせも：

Heazlewood, Tel 9397-8421

Email: minorinokai@jcv.net.au

## ホープコネクションからのお知らせ

### ホープコネクション・カルチャースクール 『ストレッチで健康管理』

毎回ご好評を頂いているホープコネクション・カルチャースクール。

今回はフィットネスインストラクターの Kiyomi Campbell さんにいろいろなストレッチ運動をご指導頂きます。健康維持のため、体重管理のため、フィットネスのため、リラクゼーションのため・・・ともかく体をほぐしてみませんか？動きやすい服装でおいで下さい。ヨガマットとかビーチタオルのような床に敷くものもあれば便利です。お気軽にどうぞ。

日時： 11月19日(土) 午前10時30分～午後0時30分

場所： Ross House

247 Flinders Lane Melbourne 3000

Swanston St. と Elizabeth St. の間です。 Flinders Station から徒歩2分。

費用： 一人5ドル(コーヒー・紅茶、資料付)

お申し込み・お問い合わせ： **0408-574-824** 日本語電話相談(月～金曜日 10時～15時)まで。

または、E-mail: [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au) まで。

チャイルド・ケアご希望の方、こんなことが聞きたいとご希望などありましたら、お申し込みの際にお知らせください。会場・資料準備のため事前の申し込みをお願いいたします。当日の午後9時以降、**0408-574-824** にて当日参加の受付もいたしますが、資料がお渡しできない場合もありますことをあらかじめご了承下さい。

### ホープコネクション電話相談のご案内

ホープコネクションでは、96年8月より日本語での電話相談を行っています。生活の中での困りごとのある方、相談相手のない方、悩み事を誰かに聴いてもらいたい方、お電話をいただければ、訓練を受けたボランティアの相談員が一緒に考えます。内容によっては専門家にご紹介もいたします。さらに現在ではマイグランドリソースセンター(移民のための窓口となる公共団体)をはじめとする、オーストラリアのサービス機関とも協力、連携を深め、ネットワークを広げています。電話は匿名で構いません。秘密は厳守致します。(相談は無料ですが、携帯電話を使用しているため、時間単位の通話料金がかかります。)

電話番号： **0408-574-824**

受付時間：月～金曜日 午前10時～午後3時まで